

南砺市チームはトップを快走していて、2位とも差があり白バイのすぐ後ろを走る選手たちは、とてもかっこよかったです。アンカーに棒が渡ったときは、差がほとんどなくドキドキしましたが、アンカーの力走もあって南砺市チームは初優勝を飾ることが出来、とても感動しました。

来年は、私も選手になって白バイの後ろを走りV2目指して頑張ります。

控 藤田絵里子（西部体育センター）

中学2年生以来、8年ぶりに南砺市チームの一員として、練習会と大会に参加しました。練習会では、中学生や高校生と

Information—協会紹介

②

南砺市バレーボール協会は、南砺市の誕生にあわせ平成16年の12月に設立準備委員会を立ち上げ、平成17年3月13日に福光中央会館において設立総会を開催し、会長に鍛冶武二氏を選出して市のバレーボール競技の統括団体として「競技の健全な普及発展と後進の育成」を目的に発足し「協会組織の充実」ほか3項目の活動方針を掲げ歩み始めました。協会は、旧8町村にそれぞれ支部を置いて市内全域をカバーすることとし、8つの専門委員会を設け活動を展開しております。現在会員は、市内全域から3団体と個人及び賛助会員の合計180名となっており、今後チーム登録と若年層を中心に会員増加を目指したいと考えておりますので競技希望者、経験者情報等があれば気楽に支部役員まで連絡をお願いしたいと思います。

市内バレーボールの現状としては、V1リーグ加入者や、中・高校生の県代表選手も多数輩出しており、本年は小学生の全国大会（ペプシカップ）に福光東部チームが出場するなど素晴らしい活躍を見せている一方、一般に目を向けると家庭婦人チームの減少等、必ずしも良好な状況にはなく、6人制、9人制そして各年代層を一体的に活性化する取り組みが協会に課せ

一緒に練習することで刺激を受け、自分も頑張ろうと思うことが出来ました。

試合当日は補欠という立場でしたが、応援という役目を通じて、選手の頑張りをみることもでき、一人一人が力を合わせ良い成績を納めたいという強い繋がりも感じることができ、実り多い体験となりました。

また、初優勝という機会にめぐり合えたことを大変嬉しく思います。

監督・コーチ・お世話をして下さった多くの方々にとっても感謝しています。

どうも有り難うございました。

られた使命と認識しているところであります。

本年の事業としては、中学生の強化を目指した協会長杯争奪「南砺市中学校VB大会」通称ナントカップを創設し、市外の強豪チームを迎え成果を上げて終えることが出来、秋には女性の底辺拡大を目標に「NANTOオープンレディース大会」を企画し、市内の中・高・一般を含めた9チームの参加があり有意義な大会になりました。

市民体育大会については、参加チーム数で課題もありましたが、一般男女、ママさん、壮年男子の4種目で実施することができ、さらに一般の全国大会県予選会を市内で主管開催し、大会運営や国体4位入賞の「北陸電力」チームのプレーを体感することが出来ました。今後とも、市体育協会や県VB協会と連携し、これらの事業を通じて市内スポーツの普及発展に寄与していきたいと考えています。

（事務局 今井正俊）

南砺市バレーボール協会

南砺市柔道会

「新たなスタートそして飛躍へ」

平成16年3月22日、各町柔道会幹部が集まり柔道会の方向性について第1回の意見交換を行った。組織、役員構成、規約、細則、行事予定そして予算等13回の協議を重ね骨子がようやく1年2ヶ月をかけて完成した。

設立総会と記念大会を同時に行うことを決定し、平成17年5月29日午後1時より溝口市長出席のもと、南砺市合併記念柔道大会を福光中学校柔道場で開催、その後高窪温泉に場所を変え設立総会を行った。初代会長に、宮崎 修、副会長に山本保則、川合正信を選出し、新体制による南砺市柔道会がスタートした。

これを受けて、6月26日には南砺市民体育大会を福野中学校武道場で開催、県体要項に基づき段位別にて旧町対抗の団体試合実施したが、今までとは違い獲得点数を競う意気込みが感じられず和気あいあいの試合展開であったように思え少し残念な気持ちになった。

少年育成については、市体で小学1年生以上の個人戦を実施し、保護者の声援を受けて子供たちは実力以上の力を発揮していた。又、福野スポーツ少年団は全国練成大会でベスト16、個人戦では4年生の部 円城康介が県大会準優勝と成果を上げ福野スポ少が軸となり月1回の合同練習会にて強化を図っている。中学生は、全中大会に城端中学校より2名出場（山本 京・山田 蕉子）山田選手は、52kg級5位入賞と輝かしい成績を取めた。11月の県選抜新人大会では、福野中学が団体決勝へ駒を進めたが惜しくも2位となり、個人戦では城端中学が2名（伊東篤志・古瀬理恵）優勝し、18年度全国大会出場を目指し一層の奮闘と活躍に大きな期待を込めたい。

今後は少子化に伴い競技人口の減少傾向等を踏まえ、小・中学生に指導者・教師・アドバイザーが一体となる強化育成体制の充実と更なる柔道の普及発展に精進する所存です。

南砺市体育協会のご支援ご協力を今後ともよろしくお願いします。（理事長 伊東 宏）

体協だより

第3号

平成17年12月25日

第23回 富山県駅伝競走大会

南砺市チーム初優勝



《第23回 富山県駅伝競走大会(平成17年11月13日) 総合順位》

1位 南 砺 記録 ◎2時間14分51秒(大会新)

2位 高 岡 記録 ◎2時間15分37秒

3位 旧射水 記録 2時間16分18秒

監督 嶋田健治

富山・高岡の一角を崩し3位以内を目標に8月上旬から計画・準備をし、2回の選手選考会、4回の合同練習を行った。大会当日は、絶好のコンディションのもと選手等の気迫も感じながら一本の棒に南砺市の夢を託し11時にスタート。2区でトップに躍り出ると、選手達は白バイの後ろを走ること、気持ちも高ぶり風に乗った気分で各自がベストの力を出し、タイム差を徐々に広げ折り返し地点では2位射水に1分余りの差をつけた。

その後も一度も首位を渡すことなく独走態勢、しかも大会新記録（昨年より5分短縮）でテープを切ることが出来た。

選手達はもちろんのこと、大会当日サポートしていただいた役員、体協、体育課の協力、そして、なによりも5万8千有余の市民の応援の賜であると思ひ厚くお礼申し上げます。

次期24回大会は、連覇を目指し選手関係者が力を合せて頑張っていきたいと思っています。本当に有難う御座いました。

区間	選手名	学校・所属	区間	選手名	学校・所属	区間	選手名	学校・所属
1	松川 正幸	南砺総合福野高校	9	宮塚 晴香	南砺総合福野高校	17	石崎 亜依	南砺総合福野高校
2	佐々木麗奈	龍谷富山高校講師	10	横山 拓也	高岡向陵高校	18	山田 美紀	吉江中学校
3	西田 真	城端中学校	11	久保真智子	城端中学校	控	館 醇一	吉江中学校
4	中川 育美	福野中学校	12	永井 秀篤	城端中学校	控	嶋田 裕樹	南砺総合福野高校
5	道海 政裕	新日軽	13	堀 真奈美	高岡商業高校	控	中山 祐作	南砺総合福野高校
6	須河沙央理	利賀中学校	14	岩井 一泰	城端中学校	控	横川 郁美	城端中学校
7	須河 宏紀	利賀中学校	15	西田 恵	砺波高校	控	松井香穂里	南砺総合福野高校
8	高瀬 裕行	高岡法科大学	16	嶋田 将樹	南砺総合福野高校	控	藤田絵里子	西部体育センター

《出場選手》

駅伝競走大会の感想

1区 松川 正幸（南砺総合福野高校）

私は先週行われた富山県高校駅伝での疲れ、大会5日前に風邪を引いてしまい思うように大会に向けて調整を行うことが出来ませんでした。それでも南砺市の方々は私を1区に推薦してくださいました。また、私は南砺市の皆さんに信じてもらっているという喜びをもったのと同時に、南砺市のために力になりたいと思うようになりました。

本番では、大学生の方をはじめ多くの強敵が集まっていたため、順位よりもトップとの差を1秒でも縮めて走るだけを考えてスタート位置に立ちました。スタートしてからはペースも上がらないまま2キロ地点までできました、ラスト1キロで急激にペースは上がり、離れてしまいましたが1秒の大切さを中学・高校で学んできたため、ラストは力を出し切ることが出来ました。

私は南砺市の1区に、そしてメンバーに選んでいただいたことに感謝しています。

大学でも南砺市の誇りを胸に頑張っていきたいと思います。

2区 佐々木麗奈（龍谷富山高校講師）

南砺市が誕生し、2年目を迎えるこの駅伝大会に「南砺市」として出場するのも2回目となります。私自身、一年ぶりの出場で南砺市の名前を背負って走るのは初めてでした。走らせていただくなら、「佐々木を使って良かった」と言われるような走りをしたいと思っていました。中高生や一般の選手の方との合同練習には、参加できませんでしたが、とにかくチームの力に少しでもなりたいという気持ちを表現しようと思っていました。

大会当日、1区の松川君が好順位で来てくれました。その勢いが私の背中を押してくれ、気持ちよくスタート。出来るだけ多い貯金を作って襷を渡そうと走りました。選手1人1人の力、選手を支えてくださった監督をはじめコーチの方々の大きな力が優勝という形で現れたのだと思います。

この優勝の瞬間を共に出来たことに、心から感謝いたします。感謝感激

3区 西田 真（城端中学校）

僕は、この大会で3区を走りました。練習会の時からメンバー入りを目指して、一生懸命やってきたので大会2日前にあったメンバー発表で、駅伝に出場することになった時は、嬉しいという気持ちと大会当日も自分の力を出し切りたいという気持ちになりました。

大会当日は、焦らず自分のペースを作って速くなりすぎて、後半にばてないように走ろうと思っていました。スタート地点で待っていると、2区の選手が2位の人と差をつけて襷を渡してくれたので、とても楽に走る事が出来ました。僕は、区間5位だったので自分の走りとしては、納得のいく走りではなかったけれど、チームとしては優勝できて良かったです。来年は区間でもチームでも1位になれるよう

に日頃の練習を大切にしていきたいです。



4区 中川 育美（福野中学校）

私は駅伝が大好きです。それは、自分の力だけではなく、みんなと力を合わせて走る事が出来るからです。

私は、南砺市のメンバーに選ばれた時は、嬉しい気持ちと不安な気持ちがありました。不安な原因は私が走って他のチームの人に抜かれるのが怖かったからです。でも、選ばれたからには南砺市のため、他のメンバーのためにも一生懸命走りました。その結果区間で1位をとることが出来ました。とても嬉しかったです。しかも総合1位という素晴らしい結果でした。私は走ってよかった、選ばれてよかったと思いました。

優勝できたのは、監督や関係者の皆さんのおかげです。有難うございました。

来年も選手になれるよう頑張りたいです。

5区 道海 政裕（新日軽）

今回、私は1.8キロと短い区間を走らせて頂きました。このような短い距離は、何十年ぶりに走るため非常に不安でした。でも、走らせて頂く限り私の今ある力を全部出し切れるよう頑張ろうと思いました。今回のレース展開は、先頭で襷をもらったのでなんとか、先頭で襷を渡したいと思いながら走りました。結果先頭で襷を渡せたのでよかったのですが、自分の走りが思うように出来なくてチームの皆様に迷惑をかけてしまいました。でも、今回優勝メンバーの一員として走れた事を、本当に嬉しく思います。

6区 須河沙央理（利賀中学校）

南砺市の代表として、県駅伝で優勝することができ嬉しく思っています。私にとって県駅伝は初めての参加であり、不安な面も少しありましたが兄への襷リレーということで楽しみな面もありました。

当日は慣れない雰囲気戸惑ってしまうことが多々ありました。それに、中継点に着いてからラジオで南砺市が先頭を走っていると聞きました。正直驚きましたが、後ろとの差を少しでも広めようと思いました。5区の道海さんが白バイの後ろをトップで走ってこられた時は本当に緊張しました。でも、その後は自分の走りができてよかったです。それに、後ろとの差を広めて兄へ襷リレーがで

ました。

県庁に戻ってからラジオで南砺市が独走と聞き少し安心しました。そして、優勝することが出来とても嬉しかったです。それに、表彰式でも前に出てメダルやカップを頂くことができました。

これからも、目標をもって練習を続け来年も南砺市の代表として県駅伝に出場できるよう頑張ります。

7区 須河 宏紀（利賀中学校）

今回の県駅伝は南砺市チームが優勝してとても嬉しく思っています。去年は出場していなかったので、今年こそは絶対に走り、チームの優勝に貢献したいという気持ちがありました。また、今年は妹との襷リレーということで、緊張していた面もありましたが、大会の中の兄妹リレーはとても思い出に残りました。

当日走っている時は、南砺市が1位できたので驚きましたが、もっと差を広げて次の走者に渡したいと思っていました。襷をもらおうとすぐにスタートして走りました。つらい時もありましたが沿道の人の声援で走りぬくことができ、次の走者に渡すことができました。

この南砺市の優勝はチームの人だけでなく、お世話をして下さった方や家族の人、地域の方々に支えていただいて、つかみ取れたものだと思います。これからも目標をもって走っていきたいと思うので応援をよろしくお願いします。

8区 高瀬 裕行（高岡法科大学）

今回、南砺市の代表として県駅伝競走大会に出場し、優勝というチームとしては最高の結果だったが、個人の結果としては満足のいくものではなかった。「区間賞を取ったくせに何を言う」と思う人もいるだろうが、タイムが悪かった。もっと速く走れたと、いまだに悔いが残る。

自分が中学生の時は、県大会に出た事はなかった。しかし、後輩たちは県代表を争うレベルの才能だ。これからどんどん実力を伸ばしてくるだろう。だが、自分は負けるつもりはない。そうやって競い合うことで、南砺市のレベルは上がっていくはず。新たな才能の誕生もあるだろう。今以上に鍛錬に励まなくては、と強く感じた大会だった。

9区 宮塚 春香（南砺総合福野高校）

私は第23回富山県駅伝競走大会のメンバーとして9区を走らせて頂きました。私の走った9区は、高校・一般女子の中で特に速い人が集まる区間だったので、9区に区間が決まった時は「南砺市のために頑張ろう」と覚悟を決めました。

大会の日、前の選手を待ちながらウォーム・アップをしている私に「現在トップは南砺市 後ろと差は50秒」という情報が入ってきました。まさか、自分のところにトップで来ると思っていなかったので驚きました。襷をもらい、白バイの後ろで走る貴重な体験は気持ちよかったです。途中で苦しくなったのですが、みんながここまでトップで繋いでくれた頑張りや、まだ後ろから強力な選手が走ってくると考えると気を緩められなかったです。

その後も南砺市は、一度もトップを譲らずゴールをすることが出

来ました。優勝できたことは、メンバー一人一人の頑張りとそれを支えてくださった周りの方々の力があつたからこそだと思います。この優勝が南砺市の一步となっていって欲しいです。

10区 横山 拓也（高岡向陵高校）

今回の県駅伝はあっという間に始まって終わって優勝してしまったという感じでした。

昨年と同じ高校生区間だったのでコースは熟知していました。

天候もよくウォーミングアップしながら放送を聞いていると、「南砺市は2区佐々木さんでトップに立ち須川兄妹でさらに後続を突き放しまし



た。」と流れてきてビックリしました。僕の予想では3位で襷をもらって僕でトップに立つ予定だったのに独走の1位で宮塚さんから襷を渡されました。3.3キロと短かったので、最初から飛ばしました。白バイの後ろを走るのはかなり気持ちのいいもので癖になりそうでした。

沿道の多くの人からの声援で残りの力を振り絞りラストスパートでき、トップで襷をつなぐ事が出来ました。区間賞のおまけも付いてきました。来年もまた走って区間賞、区間新の走りをしてV2しようと思います。

11区 久保真智子（城端中学校）

私は県駅伝で11区を走らせて頂きました。去年は風邪で出られずとても悔しい思いをしたので、選手になったと分かった時は嬉しかったです。

練習会では、速い人についていこうと一生懸命走りました。他校の人と一緒に走ったので練習会はいいい刺激になりました。

当日、会場に着くと人が沢山いて、私で大丈夫かと思い、緊張と不安でいっぱいでした。そして、襷をつないでもらった時、10区の人が背中をおしてくれて、緊張と不安が一気にとれました。1位でつないでもらい、そのまま1位でつなぐことが出来ました。

南砺市は大会新で初優勝をすることが出来ました。私は区間2位でチームに大きく貢献する走りが出来ず、少し残念でした。しかし、駅伝に出して頂いたことは、とても感謝しています。

来年もこの区間を走って区間賞を取り、チームに貢献する走りをしたいです。

12区 永井 秀篤（城端中学校）

この大会で僕は、12区を走りました。1年生なのに走らせてもらうことができ、とても嬉しかったです。選考会では僕より速い人はいたけれど、走ることが出来てよかったです。

12区の人は、ほとんどが知らない人ばかりでした。なので、どの人が走るか分かりませんでした。でも、付き添いで来てくださった竹内さんはいろいろと声を掛けてくださり、とても心強くなれ嬉しかったです。ウォーミングアップをすませ、レースとなりました。1位でたすきを渡されたため、落ち着いて走ることが出来ました。道路からは、他の市町村の人からも応援され、「市町村の枠を超えるってこういうことなのかなァ」と思いました。

結果は総合優勝と区間賞ということでした。これも、皆さんの応援があったからこそです。これからも宜しくお願いします。



13区 堀 真奈美（高岡商業高校）

南砺市としては2回目の出場でした。昨年に引き続き今年も強い人達を集めての選考会をして選手を決め、数回の練習会をして本番を迎えました。

私は昨年と同じく13区を走らせていただくことになりました。この区間には普段一緒に練習している先輩や、大会などで顔を合わせる先輩方が多くとても不安がありました。

しかし、ラジオで南砺市が1番で走っていることを聞き、出来るだけ差が縮まらないようにしようと走りました。そして、結果は念願の1位を勝ち取ることが出来ました。しかし、自分個人の結果は納得のいくものではありませんでした。

私はこの駅伝を走り、優勝した時の嬉しさ、そして自分の今の実力を知りました。そしてもっと速くなりたいと思いました。こんなすごいチームで走れた事を誇りに思います。

14区 岩井 一泰（城端中学校）

僕はこの大会で14区を走りました。自分が南砺市チームのメンバーに選ばれた時はあまり自覚がありませんでしたが、練習会などで知っている選手がたくさん来ているのを見て実感がわいてきました。

当日は焦らず、自分のレースをしようという気持ちで大会に臨みました。スタート地点で待っている時、南砺市チームの選手が走って来るのが見えました。南砺市チームはその時2位と大差をつけての1位だったので、自分も頑張らなければと思いました。14区のコースはほとんど平地でトラックで走る時と同じ感じで走りました。襷をもらった時も1位だったので、気持ちよく走ることが出来ました。

結果僕は区間3位でゴールしたので、自分の役目は果たせたかなと思いました。中学・高校・一般がチームとなって走るのはとても珍しいので来年もまた出場したいです。

15区 西田 恵（砺波高校）

私はこの大会に選手として出させていただき、初めて駅伝チームとして優勝を味わうことが出来ました。私の区間は復路だったので、往路の選手の応援をすることが出来ました。往路ではすでに1位でしたが、2位と余り差がなく不安に思っていました。しかし、私の前の区間までの選手が少しずつ差を広げてくださり、自分に襷が繋がる時は不安が楽しみに変わっていました。白パイの後ろを走るという初めての体験もでき、気持ちよく走ることができました。これも一緒に襷をつないだ仲間や、サポートしてくださった皆さんのおかげだと、とても感謝しています。

この、みんなで勝ち取った優勝という嬉しさをこれからも味わえるようにしたいです。そして、来年も是非、この南砺市のチームのメンバーとして走りたいと思います。

16区 嶋田 将樹（南砺総合福野高校）

私は、南砺市チームの一員となり、16区を任されました。私は去年も16区を任されました。コースの方は、よく覚えていましたし、どこからが勝負なのかも把握していました。

1.5kmからじわじわ登りが始まり、私は特にここから勝負だと大会前から思っていました。

当日、体調もよくやる気もありました。レースが始まり南砺市が2区からトップに立ち、私のところまでトップできてとても驚きました。私は、そこで一段とやる気が出ました。襷を渡され自分のペースで走ることができました。しかし、タイムが悪く悔しかったです。

私は、南砺市チームの一員としてレースに参加して優勝することが出来とてもよかったです。なかなかできないことをやり遂げられました。これからの生活に活かして行きたいです。本当に南砺市チームで参加できてよかったと思います。

17区 石崎 亜依（南砺総合福野高校）

今回私は初めて県駅伝に参加させていただき、分からないことばかりで不安なまま当日の朝を迎えました。会場に着いてからは人の多さやラジオの生中継など、大会の規模の大きさに驚かされ、ますます不安や緊張の気持ちでいっぱいになりました。現地へ着いてもオドオドしていた私を支えてくれたのはサポートの人々でした。ずっとラジオなどで状況を伝えてくださったり、励ましの言葉もたくさん掛けてくださったりしました。南砺市は前半から1位。優勝出来るかもしれないという喜びと、ここで順位を落とすわけにはいかないというプレッシャーの中、いよいよ襷を受け取ってスタートしました。すぐに歓声に包まれました。「南砺市頑張れ!!」顔も名前も知らないたくさんの人の応援に後押しされて私はなんとか1位でアンカーに襷を渡すことが出来ました。アンカーの山田さんは私が縮めてしまった差をもう一度広げて、優勝。今回優勝出来たのはチームの皆さん、沿道の方々、そ

してこの大会を支えてくださった方々のおかげだと強く感じました。この気持ちを次の走りにつなげて行きたいです。

18区 山田 美紀（吉江中学校）

私は、県駅伝でアンカーを走りました。以前からアンカーを走りたいと一生懸命練習に取り組みました。願いが叶いアンカーを走ることになった時は、本当に嬉しかったです。

大会当日は、みんなのために頑張ろうという気持ちで走り始め、徐々にペースを上げていき、ラストスパートもしっかりできて、自分の満足のいく走りが出来ました。自分でペースをつくるのは苦手ですが、白パイのおかげでペースが守れ気持ちよく楽しく走れました。

大きな大会で優勝したのは始めてだったので、とても嬉しかったです。個人でも区間1位をとれて安心したし、タイムも目標にしていたタイムを上回ることが出来てよかったです。

この県駅伝で、一人の力は小さくても、チームとしてまとまった時に発揮される力はとても大きいことが分かりました。このことを活かして、1月15日に行われる都道府県対抗女子駅伝でも自分のもっている力を出し切って走りたいです。

控 舘 醇一（吉江中学校）

今回の県駅伝競走大会の南砺市チームのメンバーに入れてもらいました。練習日のほかに自主練習を行い、選手になっても補欠になっても、いつでも走れるように体をつくっていました。

しかし、3日前に体育の授業中怪我をしてしまい、走れなくなり選手どころか補欠の役割も果たせなくなってしまいました。今まで、補欠の大切さを分かっていたつもりでしたが、自分が怪我をしてしまって補欠の役割も果たせず選手に何かあったら南砺市チームはどうなるのかと思い、この時あらためて補欠の重要性が分かりました。僕が作った大きな穴を監督やコーチが苦勞してうめてくださいました。

私は、迷惑を掛けましたが選手たちは万全の体調で走ってくれました。一生懸命応援しました。優勝できたことは、とても嬉しかったです。支えてくださった皆さんに感謝し、これからも楽しく走りたいです。

控 嶋田 裕樹（南砺総合福野高校）

私は、今回南砺市チームの一員として駅伝に出させて頂きました。私は補欠でしたが大会初優勝、大会記録で優勝できたことがとても良かったです。大会までには、怪我などをしてあまり練習ができなかったけど自分の力を発揮できたと思います。今回の補欠で走れなかった悔しさをぶつけて、来年は2連覇の一員になりたいと思います。

とてもよい経験が出来ました。

控 中山 祐作（南砺総合福野高校）

今回この大会で南砺市が優勝しました。南砺市が誕生する前、

まだ西砺波郡の時からこの大会を経験してきましたが、優勝という経験をしたのは今回が初めてでした。僕は去年に引き続いて補欠としての参加で大変悔しい思いをすることになりましたが、よい経験が出来たと思います。この大会のため、南砺市の大勢の役員の方々が多数の手配をし、選手を影で支えてくださいました。この大会は、このような方々の支えがあってこそ成り立つということ、補欠という形がなければこの重大さはあまり理解出来なかったかも知れません。

今回、僕は役員の方と一緒に行動し、大変よい経験をさせて頂きました。今回選手として出場することは出来ませんでした。今回の経験を通して、影で支えている方々への感謝の気持ちを忘れず、競技し続けて行きたいです。

控 横川 郁美（城端中学校）

私は補欠でした。レースでは走ることができず、とても悔しい思いをしました。でも、南砺市チームに入れたことはとても嬉しい事でした。

大会までの練習はペース走などが多く、きつかったです。だけど、いろんな人と練習ができて、自分の持久力が上がったのでよかったです。

当日は11区で応援、サポートをしていました。私を知っている強い選手がたくさんいて、私も走りたいと思いました。中継点に選手が入ってきた時には南砺市は1位で来て、レベルの高さにビックリしました。最後のゴールのところを見ていて、1位で帰ってきた時には感動しました。

私はこの経験を冬のクロスカントリー競技や、高校に入っの陸上やスキー競技に生かしていきたいと思います。

南砺市チームのメンバーに入れていただいて本当に有難うございました。



控 松井香穂里（南砺総合福野高校）

私は今回初めて県駅伝に参加して、中学駅伝や高校駅伝とは違った市のいろんな年代の人が集まって1本の襷をつなぐというおもしろさを感じました。

今回はサポート役として選手の皆さんとレースに参加しましたが、距離が短く区間がたくさんあり、いつ順位が変わってもおかしくは無い状況だったので、とてもハラハラしていました。しかし、